2027年3月期　第2四半期
決算説明資料

2026年11月12日
（東証スタンダード市場　7122）

近畿車輛株式会社

目次

1. 決算サマリー P3
2. 決算ハイライト ..... P4~
3. 業績予想の修正 P8
4. 通期業績予想 ..... P9~
5. トピックス ..... P13~
6. 近畿車輛の会社概要 P15
7. KINKISHARYO International, L.L.C.の会社概要 P16
8. グループの事業概要 ..... P17~
9. 特別損失の発生について P19

決算サマリー

・売上高はエジプト・カイロ4号線案件および米国ロサンゼルス郡都市交通局Bライン案件の作業進捗に伴い、
前年同期に比べて増収

≪参考情報－1≫ エジプトアラブ共和国・カイロ4号線案件について

エジプト運輸省・トンネル公団（National Authority for Tunnels）に対して、三菱商事株式会社とともに車両納入契約を締結（2021年）

・第1期向け鉄道車両：184両／納入時期：2025年～2028年を予定

※詳細情報開示URL：https://www.kinkisharyo.co.jp/assets/news/pdf/pdf00000223.pdf

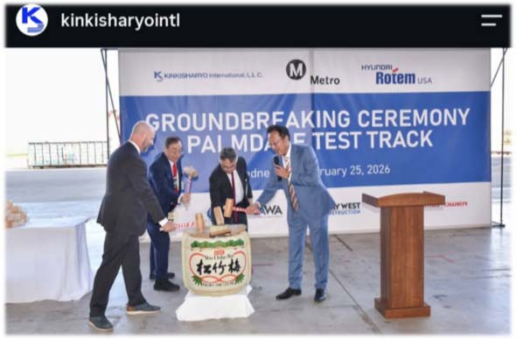
≪参考情報－2≫ ロサンゼルス郡都市交通局Bライン案件について

ロサンゼルス郡都市交通局がヒュンダイロテムUSA社に発注したBライン向け車両について、
最終組立工事の請負契約を同社と締結（2025年）

・ベース契約向け鉄道車両：182両（オプション契約：50両）／納入時期：2027年以降を予定

・製造開始に先立ち、パームデール工場の試運転線延長に向けて起工式を実施（2026年2月）
現在は2026年中の製造開始に向けて電気設備等の工場設備を改良中

※詳細情報開示URL：https://www.kinkisharyo.co.jp/assets/library/pdf00000177.pdf



・米国ニュージャージートランジット（NJT）のメンテナンス案件は整備対象車両が変更となったことにより減収

・**原価低減と価格転嫁が寄与** ⇒ 災害による特別損失は発生したものの**中間純利益（103百万円）を計上**

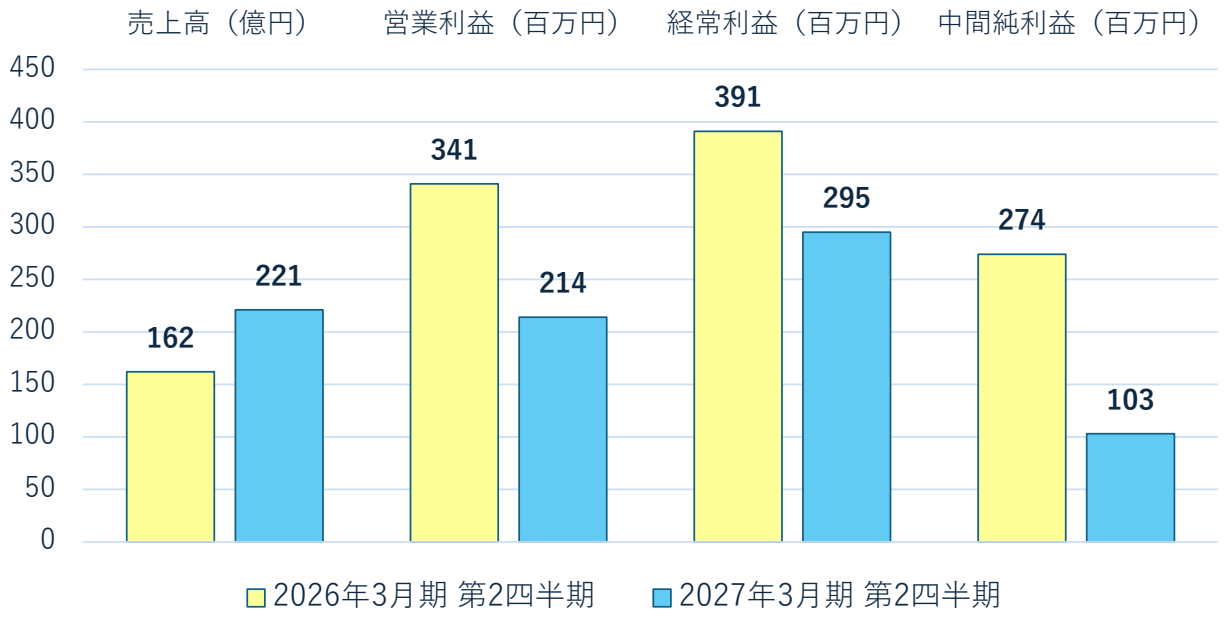
決算ハイライト-1

（百万円）	2026年3月期 第2四半期 実績（累計）	2027年3月期 第2四半期 実績（累計）	増減
売上高	16,269	22,179	5,910
営業利益	341	214	△ 126
経常利益	391	295	△ 95
特別損失	―	83	83
税金等調整前中間純利益	391	212	△ 178
親会社株主に帰属する中間純利益	274	103	△ 171
１株当たり中間純利益（円）	39.96	15.06	△ 24.90

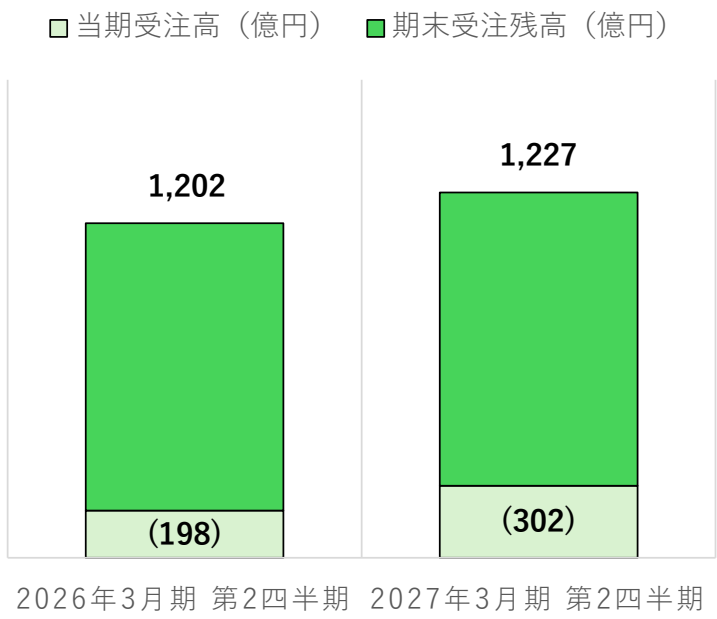
KINKI SHARYO

決算ハイライト-2

【前年同期との業績比較】



【受注状況】



決算ハイライト-3（セグメント別の業績）

（百万円）	売上高			営業利益		
	2026年3月期 第2四半期 実績（累計）	2027年3月期 第2四半期 実績（累計）	増減	2026年3月期 第2四半期 実績（累計）	2027年3月期 第2四半期 実績（累計）	増減
鉄道車両（日本）	11,253	7,705	△ 3,547	615	987	372
鉄道車両（米国）	4,155	4,059	△ 95	△ 61	△ 568	△ 506
鉄道車両（その他）	441	9,984	9,543	24	30	5
不動産賃貸	419	429	10	367	378	10
調整額	―	―	―	△ 604	△ 613	△ 9
合計	16,269	22,179	5,910	341	214	△ 126

1.「鉄道車両（その他）」に属する主な国または地域：中華人民共和国（香港）、エジプト・アラブ共和国
カタール国、アラブ首長国連邦、フィリピン共和国

2.「調整額」は各セグメントに帰属しない一般管理費

決算ハイライト-4（貸借対照表）

（百万円）	2026年3月末	2026年9月末	増減	概要
流動資産	51,819	45,766	△ 6,053	契約負債（＝前受金）の減少
固定資産	21,117	21,509	391	従来はリース資産であった米国東部ピスカタウェイ工場の購入により建物および土地が増加する一方で、リース資産は減少（同工場は2026年10月に売却済み。詳細はP14参照）、投資有価証券の時価変動による減少
資産合計	72,937	67,276	△ 5,661	
流動負債	32,846	27,288	△ 5,558	契約負債（＝前受金）の減少
固定負債	4,136	4,059	△ 77	
負債合計	36,982	31,347	△ 5,635	
純資産合計	35,955	35,928	△ 26	利益計上、配当金支払、有価証券評価差額金
負債・純資産合計	72,937	67,276	△ 5,661	
総資産	72,937	67,276	△ 5,661	
自己資本比率	49.3%	53.4%	4.1pt	

業績予想の修正

生産性向上による原価低減および価格転嫁等が寄与して、営業利益および経常利益ともに上方修正

- 営業利益の修正　　100百万円　⇒　400百万円
- 経常利益の修正　　100百万円　⇒　400百万円

米国東部ピスカタウェイ工場の売却益（特別利益）が想定より上回ったため、当期純利益も上方修正

- 当期純利益の修正　1,000百万円 ⇒　1,900百万円

配当金の支払について

- 配当金の方針に変更はないが、2027年3月期の中間配当は行わず、1株当たり50円以上を維持したうえで期末配当金として一括支払

通期業績予想-1

- 売上高はJR西日本向け、近鉄向け、エジプト・カイロ向けの各案件が進捗したことに伴い増収
- 営業利益は増収に加えて原価低減および価格転嫁が寄与して採算の改善が進むため増益
- 特別利益は米国東部ピスカタウェイ工場の売却によるもの、特別損失は災害による損失およびピスカタウェイ工場の工場整理損（移転費等）によるもの
- 当期純利益は特別利益の発生により増益

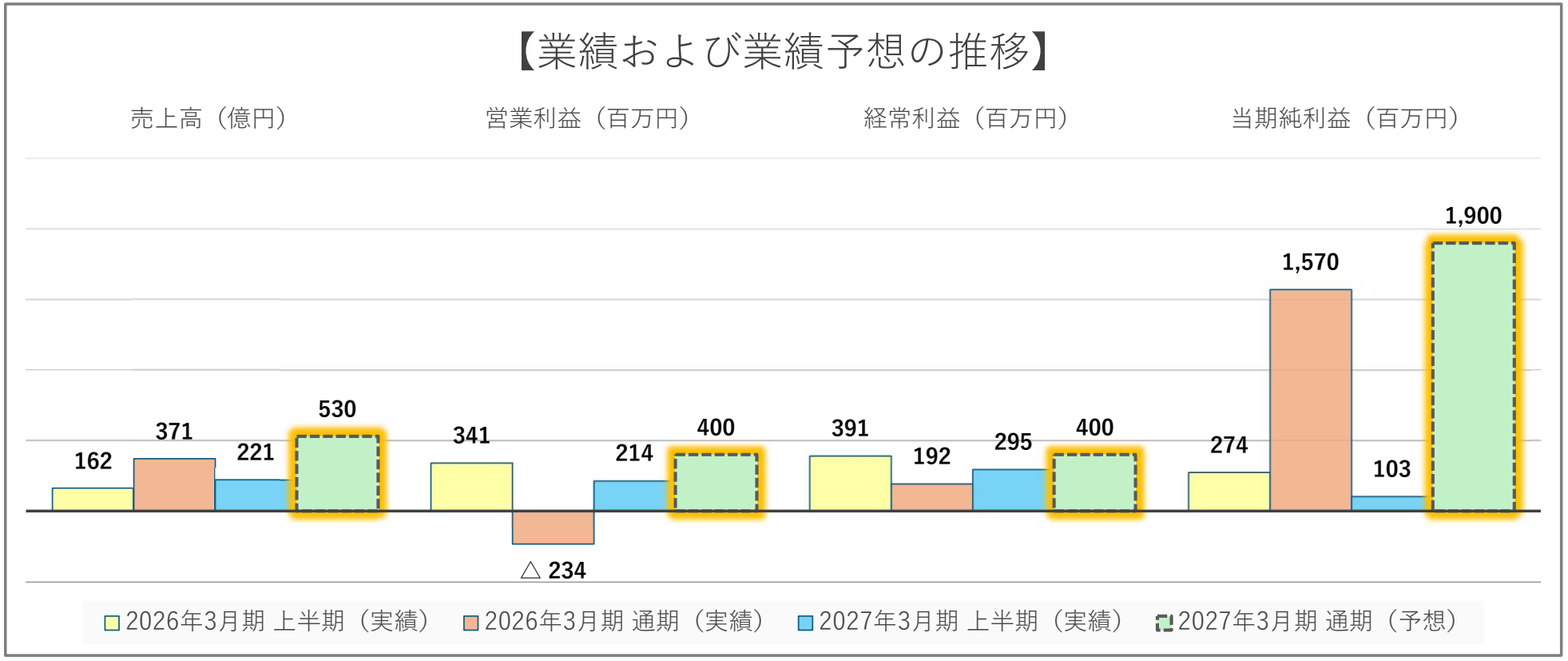
通期業績予想-2　前期比較

（百万円）	2026年3月期 通期 実績	2027年3月期 通期 予想	増減
売上高	37,100	53,000	15,899
営業利益	△ 234	400	634
経常利益	192	400	207
特別利益	961	2,500	1,538
特別損失	—	570	570
税金等調整前当期純利益	1,154	2,400	1,245
親会社株主に帰属する当期純利益	1,570	1,900	329
１株当たり純利益（円）	228.32	276.16	47.84
為替レート（円/米ドル）	@ 159.88	@ 145.00	△ 14.88

通期業績予想-3　年度内比較

（百万円）	2027年3月期 上半期 実績	2027年3月期 下半期 予想	2027年3月期 通期 予想
売上高	22,179	30,820	53,000
営業利益	214	185	400
経常利益	295	104	400
特別利益	―	2,500	2,500
特別損失	83	486	570
税金等調整前当期純利益	212	2,187	2,400
親会社株主に帰属する当期純利益	103	1,796	1,900
１株当たり純利益（円）	15.06	261.10	276.16
為替レート（円/米ドル）	@ 157.35	@ 145.00	@ 145.00

通期業績予想-4


【業績および業績予想の推移】
売上高（億円）
営業利益（百万円）
経常利益（百万円）
当期純利益（百万円）
162
371
221
530
341
△ 234
214
400
391
192
295
400
274
1,570
103
1,900
2026年3月期 上半期（実績）
2026年3月期 通期（実績）
2027年3月期 上半期（実績）
2027年3月期 通期（予想）

トピックス-1

・当期に出場した車両

JR西日本向け近郊型車両（227系）・牽引車、南海向け一般車（8300系）、
近鉄向け一般車（8A系・6A系）、阪神向け急行用車両（3000系）、
エジプト・カイロ4号線向け地下鉄車両



・JR四国向け3600系車両が「グッドデザイン賞」に選定

2025年12月に納入し、2026年6月27日から営業運転を開始したJR四国向け3600系車両（ハイブリッド式ローカル車両）が、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2026年度グッドデザイン賞」に選定された



トピックス-2

・米国東部ニュージャージー州ピスカタウェイ工場を売却

中期経営計画における取り組みの一環として、製造拠点集約による北米事業の効率化を目指し、2026年10月に連結子会社であるKI-PISCATAWAY LLCが所有するニュージャージー州ピスカタウェイ工場を売却した

・女性役員との社内懇談会を開催

中期経営計画のサスティナビリティ項目でも掲げているダイバーシティ推進の一環として、2026年8月28日に「近畿車輌で女性が輝いて活躍できる仕事とは」をテーマにパネルディスカッションを実施

多様な人材が働き、活躍できる環境づくりを目指して、社内の全女性正社員を対象に順次開催する予定



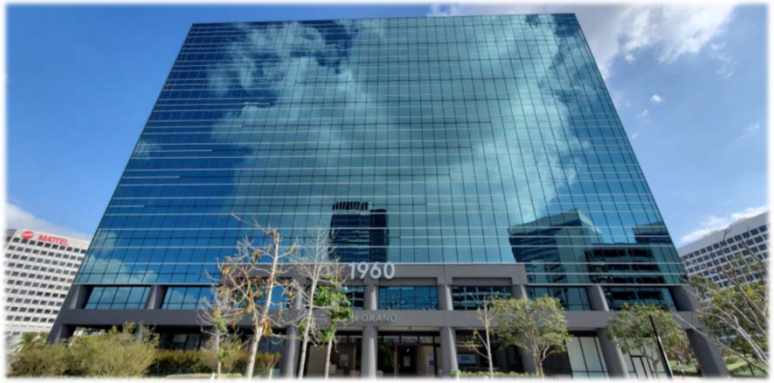
近畿車輛の会社概要（2026年9月30日現在）

商号	近畿車輛株式会社
沿革	1920年（大正9年）12月19日「田中車輛工場」として創業 ※1939年（昭和14年）11月18日「田中車輛株式会社」に改組（会社設立） 1945年（昭和20年）11月19日「近畿車輛株式会社」に商号変更
本社所在地	〒577-8511　大阪府東大阪市稲田上町2丁目2番46号
資本金	5,252,799,666円
従業員	約1,000名
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場
証券コード	7122
発行可能株式総数	12,000,000株
発行済株式総数	6,908,359株
株主数	4,158名



KINKISHARYO International, L.L.C.の会社概要

商号	KINKISHARYO International, L.L.C.
沿革	1991年5月　KINKISHARYO（USA）INC.（現 KINKISHARYO International, L.L.C.）設立
	1999年5月　KINKISHARYO International, L.L.C.（現 連結子会社）設立
	2018年1月　KINKISHARYO（USA）INC.と KINKISHARYO International, L.L.C.を統合し KINKISHARYO International, L.L.C.を存続会社とする
本社所在地	1960 East Grand Avenue, Suite-1210 El Segundo, CA USA
資本金	2,000,000US$
従業員	約250名



グループの事業概要

事業の内容
- 鉄道車両の製造/修理/改造および鉄道車両部品等の販売
- 不動産賃貸事業（土地および商業施設の賃貸）

製造拠点
- 日本：大阪府東大阪市 徳庵工場
- 米国：カリフォルニア州 ロサンゼルス郡（LA） パームデール工場

主要な販売先
- JR西日本、JR四国、近鉄、東武、南海、阪神、東京メトロ、Osaka Metro、ロサンゼルス郡都市交通局







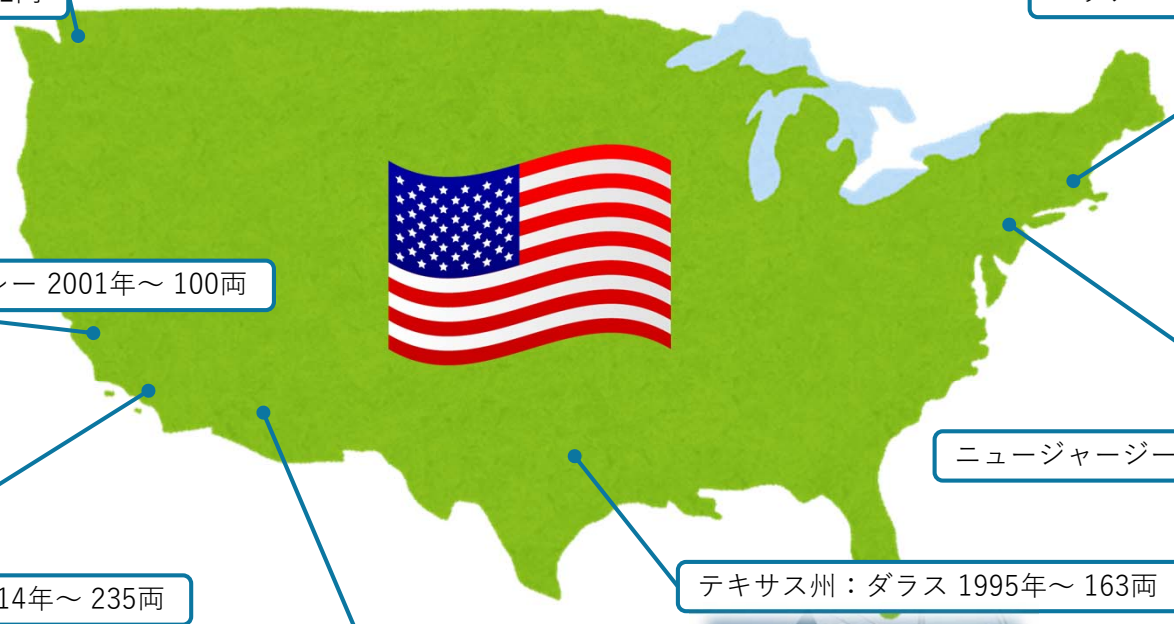
北米における納入実績

ワシントン州：シアトル 2006年～ 62両



マサチューセッツ州：ボストン 1986年～ 120両





カリフォルニア州：サンタクララバレー 2001年～ 100両



ニュージャージー州：ハドソンバーゲン 1998年～ 73両



カリフォルニア州：ロサンゼルス 2014年～ 235両



テキサス州：ダラス 1995年～ 163両



アリゾナ州：フェニックス 2006年～ 50両



特別損失の発生について

災害による損失の発生と復旧策

- 火災の概況
  - 発生日時：2026年8月7日午後4時33分頃
  - 発生場所：東大阪市徳庵工場内　屋根上塗装用ブース
  - 被害状況：塗装ブースの損傷および軽傷者1名

- 設備復旧策（追加の設備投資として実施中）
  - 2026年度末（2027年3月末）の完成を目指して復旧策に着手済み
  - 工事概要：焼損した設備を撤去したのち、塗装ブースを再設置
  - 設備投資額：約4億5千万円
  - 業績への影響（特別損失）は焼損した塗装設備の除却損および撤去費を見込む

（注）本資料における業績予想については、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。